

# 閉伊川水系河川整備基本方針

平成17年8月

岩 手 県

# 閉伊川水系河川整備基本方針

## 目 次

1 . 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 .....	1
1.1 流域の現状 .....	1
1.2 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 .....	3
2 . 河川の整備の基本となるべき事項 .....	4
2.1 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 .....	4
2.2 主要な地点における計画高水流量に関する事項 .....	4
2.3 主要な地点における計画高水位及び計画横断形 に係る川幅に関する事項 .....	4
2.4 主要な地点における流水の正常な機能を 維持するため必要な流量に関する事項 .....	5

(参考)

閉伊川水系図

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### 1.1 閉伊川流域の現状

閉伊川は岩手県の太平洋側の中央付近に位置しており、北上山地の区界峠に源を発し、山間部を蛇行しながら J R 山田線、国道 106 号に沿って東に流れ、途中、小国川、刈屋川、長沢川、近内川、山口川などの支川を合流しながら、宮古市街を貫流し、宮古湾に注ぐ幹川流路延長 88.2 km、流域面積 972.0km<sup>2</sup>の県内屈指の二級河川である。河口付近では沖積平地を形成し、宮古市の平地部を形成している。

その流域は、宮古市、新里村、川井村の 1 市 2 村に及び、流域内人口は約 4 万人で、そのうち約 80% の 3 万 1 千人近くが宮古市に集中している。

流域の年間降雨量は 1,300mm 程度で、年平均気温は 10 程度である。

閉伊川水系は、古くからたびたび洪水に見舞われ、流域の人々は大きな被害を受けてきた。特に、明治 42 年、明治 43 年及び大正 2 年の洪水などで、大きな被害を受けたことから、昭和の初め頃に現在の花輪橋地点より下流の堤防の大部分が整備された。

その後、昭和 22 年、23 年のカスリン、アイオン両台風でも流域のいたる箇所において激甚な被害を受け、この両台風による被害を契機に、昭和 39 年から宮古橋下流左岸約 1.1 km の堤防の整備が実施されている。

また、支川においては、昭和 39 年から、都市化が進んでいる近内川、山口川において、市街地の河川改修による治水対策が進められてきた。田園地帯を流れる支川長沢川においては、昭和 40 年から改修工事が始まり、平成 6 年までに約 2.8 km の堤防が整備された。

近年では、昭和 56 年 8 月の台風 15 号の出水により、宮古市街地で内水被害が発生したことから、これを解消するためポンプ設備設置等の内水対策を実施している。

三陸沿岸地帯は津波の常襲地帯であり、特に明治 29 年（死者 702 人）、昭和 8 年（死者 1,522 人）の二度の大きな三陸津波により貴重な人命、財産などに甚大な被害を受けている。また、最近では昭和 35 年のチリ地震による津波（死者 1 人）で大きな被害を受けている。

閉伊川河口部の津波対策事業としては、昭和 35 年のチリ地震津波を契機として、河口部より上流 646m の防潮堤が昭和 41 年までに TP5.26m の高さで完成している。

その後、昭和 48 年 6 月「岩手県海岸保全行政事務連絡協議会」が組織され、今後の津波に対する対策高さを検討した結果、宮古湾の閉伊川河口部は TP8.5m と定められたことから、この高さに対応した津波対策が必要となっている。

閉伊川水系は、沿川住民にとって大切な水の供給源であり、農業用水、工業用水、水道用水及び発電用水等に利用されている。

近年、地域住民の生活等に著しく影響を与えるような渇水の被害は発生しておらず、比較的安定した流況を保っている。

閉伊川流域には縄文時代の遺跡が多く確認されており、河童、ガマ蛙等川に係わる伝説、民話も多く伝わっているなど人々との係わりは古く、上・中流域は、峡谷・渓谷、滝など優れた河川景観及び豊かな自然が多く残されている。これら河川環境の保全や人と水とのふれあいの場の確保など河川利用に対する関心についても年々高まっている。

上流部では、新緑、紅葉が県内でも有数の名所となっており、冬の雪景色と相まって四季折々の風情をかもしだしている。流域には、カラマツ植林も見られるが、概ねクリ・ミズナラ群落、コナラ群落を主体とした植生で覆われ、早池峰国立公園の早池峰山周辺には、ハヤチネウスユキソウなどの貴重な植物が分布している。川沿いに形成された狭い平坦地には、集落や畑等が点々と散在しており、流れは、植生豊かな山地の中を流れる美しい溪流、渓谷美となっており所々大きな淵が見られ、イワナ、ヤマメ等の溪流魚類が多く生息している。

中流部では、山が河畔まで迫っており、スギ・ヒノキ・サワラ植林も見られるが、概ねコナラ群落、水田雑草群落を主体とした植生で覆われており、蟹岡滝や樹齢400年のアカマツ群等、川の流れと一体化した美しく変化に富んだ景観となっている。川井村の中心部には、川井河川公園があり階段護岸等が整備され水辺に近づきやすくなっており、川の水がきれいで流れも穏やかであるため、水遊び等に訪れる人も多い。河川は瀬、淵の連続で、良好な自然が保たれ、ウグイ、アブラハヤの産卵床となっているとともにアユ等が生息するなど、多くの釣りファンが訪ねている。

下流部では、発達した河畔林やヤナギ・ツルヨシ等に覆われた中州にカワウなどの野鳥が生息している。また、ワンドにはスナヤツメなどの魚類が生息し、花輪橋付近はアユの産卵場所となっている。閉伊川河口付近で発達した宮古市の中心部は市街化が進んでおり、閉伊川緑地公園、老木公園等の高水敷を利用したイベントの開催やスポーツ活動などに幅広く利用されている。

閉伊川水系における水質については、本川の花輪橋より下流及び支川の近内川において環境基準類型でA類型、本川の花輪橋より上流及び近内川以外の支川についてはAA類型に指定されている。近年のBOD75%値で見ると、環境基準値をほぼ満足しており、水質は良好である。

また、類型指定外の宮古市街地を流れる支川の山口川については、昭和60年代までは家庭雑排水等が流れ込み水質は悪化傾向であったが、昭和63年度から進められた下水道整備及び地域住民の水質浄化に対する意識の高揚等により、水質が改善されてきている。

これらのことから、洪水・津波等から尊い命、貴重な財産を守る「治水」、安定した水利用ができる「利水」、そして流域の豊かな自然環境・歴史・風土を保全しつつ、うるおいとやすらぎのある水辺環境を創出する「河川環境」のバランスのとれた川づくりが望まれている。

## 1.2 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

本水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、河川整備の現状、水害発生状況、河川の利用の現況および河川環境の保全を考慮し、流域内の諸計画との整合を図り、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図る。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、概ね 100 年に 1 回の降雨で発生する洪水の安全な流下及び明治三陸地震津波程度の規模の津波に対処する。

さらに、洪水等の発生時の被害を最小限に抑えるため、洪水ハザードマップ（避難地及び避難経路等を明示）の作成等を支援し、水防体制の維持・強化、災害関連情報の提供、洪水時における情報伝達体制及び警戒避難体制の整備を行う。

流水の正常な機能の維持に関しては、既得かんがい用水の実態調査を進めながら、適正かつ合理的な水利用の促進を図る。

また、水質についても、関係機関と連携しながら、良好な水質の保全に努めるとともに、地域住民の河川への興味を高めるため家庭雑排水等水質保全に対する啓発を図る。

さらに、渇水時における情報収集・提供の体制を整備し、渇水による被害が最小限になるよう努める。

河川環境の整備と保全に関しては、閉伊川は手つかずの自然が多く残されていることから、上・中流部では、瀬・淵の連続となっている溪流、滝や原生林からなる渓谷の川の流れと一体化した美しい自然景観、ウグイやアブラハヤの産卵床となっている平瀬や淵の保全に努める。

下流部では、ヤナギ・ツルヨシ等で覆われた中州や河畔林、スナヤツメ等が生息するワンド、アユの産卵場所となっている平瀬等の保全に努める。

水辺空間の整備については、アユ等の遡上の妨げとならないよう河川の連続性をもたせた整備を図るなど、多様な動植物などの生息・生育する良好な河川環境の保全に努めるとともに、人々の河川を利用したいろいろな活動が行われるよう人と自然が共生できる川づくりに努める。

河川の維持管理に関しては、今後とも、流域住民との関係をより緊密にし、河川愛護意識の高揚並びに住民参加による河川管理を実行する。

また、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多面的機能を十分に発揮させるため適切な維持管理を行うとともに、河童などの伝説を伝える自然豊かな清流を後世に伝え、地域の人々にとって川が引き続き美しく親しみやすい空間であるために、地域の人々と共に河川清掃を実施するなど河川美化に努める。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### 2.1 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

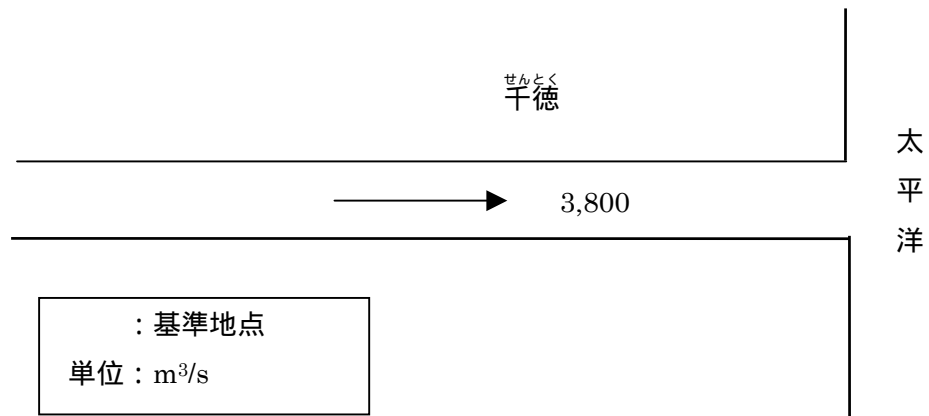
基本高水のピーク流量は、基準地点千徳で 3,800m<sup>3</sup>/s とし、これをすべて河道により流下させる。

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量 (m <sup>3</sup> /s)	洪水調節施設による調節流量 (m <sup>3</sup> /s)	河道への配分流量 (m <sup>3</sup> /s)
閉伊川	千徳	3,800	-	3,800

### 2.2 主要な地点における計画高水流量に関する事項

閉伊川における計画高水流量は、基準地点千徳において 3,800m<sup>3</sup>/s とする。



閉伊川計画流量配分図

### 2.3 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本川の千徳地点における計画高水位及び概ねの川幅は、次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離(km)	計画高水位 TP.m	川幅 (m)
閉伊川	千徳	5.6	8.91	270

T.P. : Tokyo Peil の略で、東京湾の平均潮位を基準として地表面の標高を表したものの高さは「昭和 44 年度平均成果」による。

#### 2.4 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

閉伊川水系における水利用としては、許可水利権取水量 $28.61\text{m}^3/\text{s}$ 、慣行水利権取水量 $1.25\text{m}^3/\text{s}$ 、受益面積 $139\text{ha}$ であるが、特に水不足が生じるようなこともなく、また、公共下水道整備等により水質は環境基準値をほぼ満足しており、本水系は比較的良好な水環境となっている。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、今後、水利用の現況や動植物の生息、生育環境等を十分に調査した上、設定するものとする。

# 閉伊川水系図



流域面積	972km <sup>2</sup>
幹川流路延長	88.2km

凡例	
	流域界
	河川
	道路
	鉄道
	市町村界
	治水基準点

